

令和 2 年 4 月 24 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02724

研究課題名(和文)近世節用集の基礎情報総合事典のための基礎調査・研究

研究課題名(英文)Basic research and study for the basic information encyclopedia of early modern lexicons(setsuyoshus) in Japan

研究代表者

佐藤 貴裕 (Sato, Takahiro)

岐阜大学・教育学部・教授

研究者番号：00196247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代に漢字を引くための辞書として庶民層にまで広く用いられた「節用集」の全貌を捉え、より的確にその様相を発信すべく、本研究を企図した。

諸本の調査・写真撮影は、公立図書館・大学等附属図書館および(公)文書館・歴史民俗資料館・博物館など全38の施設にのぼった。また、原本資料の購入は57点であった。これらの調査・購入により、10点ほどの稀書・未知の書を見出した。これらの成果の一部は「近世節用集事典(稿)」<https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm>上に公開している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、節用集諸本は、国語資料ことに語(彙)史資料として用いられてきたが、今後は、節用集諸本の成立背景・性格にも考慮した、より深い次元での利用が期待できるかと思う。また、節用集諸本は、人文史学の諸分野が注目するところであり、その方面の研究者への情報提供が、より効果的・効率的になされることが見込まれる。

節用集などの付録にある諸情報が、当時の日本人の社会性・行動規範を育んだと見る向きもあり、それは世界的にも注意される「パクス・トクガワナ」(徳川軍事政権下における平和)の維持・形成にも寄与したことも考えられないではない。本研究による成果は、学際的・国際的な日本研究に資する可能性がある。

研究成果の概要(英文)： This study aims to grasp the overall picture of "Setsuyoshu", which was widely used as a dictionary for drawing Chinese characters in the Edo period (1603-1867), and to convey its aspects more precisely.

A total of 38 public libraries, university libraries, public archives, historical and folkloric archives, and museums were surveyed and photographed. In addition, 57 original materials were purchased. Through these investigations and purchases, I found about ten rare and unknown books. Some of these results are available on the "Encyclopedia of Early Modern Setsuyoshus (manuscript)" <https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm>.

研究分野：日本語学

キーワード：辞書史 節用集 日本語史

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

国内の人文学諸方面より近世節用集(用字集・簡易国語辞典)が注目を集めている。それは、18世紀以降の節用集に付録される日用教養記事が、地図・武鑑・公家鑑・年代記・易占・年暦・日用医療・各種作法・料理献立・趣味・武具図解・手紙文例などにおよび、当時の人びとの行動規範・歴史認識・社会認識をはじめとする生活知識を涵養し、ひいてはあるべき生活態度を示唆したところが小さくないと見てのことである。たとえば、次のような研究実績が蓄積されてきているのである。

鈴木健一(近世文学)・石山秀和(教育史) 日常的・日用的教養の涵養を重視  
エレーナ=ポロヴニコヴァ(日本思想史) 日本人の特性を付録類から析出  
横山俊夫・池上英子(文明史) 礼節を保った近世人の形成に寄与したと分析  
横田冬彦(近世史) 対外的契機以前に、国家意識の形成に寄与した可能性を指摘  
鍛冶宏介(近世史) 節用集(および通俗教養書)による、知の伝播を実証

ただ、申請者のこれまでの研究によれば、18世紀以降の節用集の付録類は、編者・書肆らが自由に取捨選択して形成したものとはかぎらないものである。付録として採用するためには、それぞれの記事の板株(近世的版權)を所有している必要があったからである。したがって、近世的知が満載されているかに見える節用集の付録ではあるが、それぞれの記事が節用集の付録になるまでの過程など、相応の吟味を経る必要があることになる。また、付録の内容も、どの節用集にもほぼ同一のものがある一方で、諸本よる個性(個性)もある。このように節用集の付録には、それを研究対象として俎上にのぼせる前に検討すべき点や留意すべき点があることになる。諸方面から多角的に節用集が検討されるのはよいのだが、どのように節用集とその付録類を研究対象として選択すべきかについては、まだ指針が得られておらず、指針を得るための情報の蓄積と整理も大きな課題として残っているのが現状である。

そこで、これまでの申請者の節用集諸本における検討に加え、さらに近世節用集の諸本の調査、未紹介書の発見、付録類の整理などを総合的におこない、基礎情報を円滑に発信していくことが必要であると考えている。

### 2. 研究の目的

昨今、隣接分野の研究(近世史・思想史・教育史・文明史など)から近世節用集が注目されている。当時の人びとに対し、基本的な生活規範・歴史認識・社会構造を伝え、近世・近代の日本社会を築いたツール・メディアとして把握しつつあるのである。こうした動きに鑑みると、辞書史学を擁する日本語学の立場からは、的確で充実した学術情報を提供することが求められていると考える。そこで、本研究では、申請者の、これまでの節用集研究を基盤とし、さらに情報・検討を蓄積し、隣接諸分野に発信することを目的としようと考えた。具体的には『近世節用集解題事典』などの形で提供することを最終的・具体的な目的とするが、完成を待たずに、適時に情報を発信するため、試行版をHP上で提供することを視野に入れる。学問分野の枠を超えた、人文学のさらなる興隆に寄与することができればと考えている。

### 3. 研究の方法

研究の目的を達成するために、現存する諸本の調査にもとづく書誌情報等の集積とともに、これまで知られていなかった諸本の発見・紹介を行なう必要があると考える。そのため、大学・自治体の図書館所蔵の諸本を調査することがまず常道とはなるが、こうした施設では図書としての美点、すなわち保存状態の佳良のものを優先的に収蔵する傾向にあることは注意せねばならない。本研究のように近世節用集の全貌への接近を前提とする研究では、図書としての保存状況よりも、(副次的要請ではあるかもしれないが)史的存在としての書籍の価値を重視することが期待される(公)文書館・歴史民俗資料館・歴史博物館などでの調査を積極的に行う必要もあることになる。また、これとほぼ同様に、近世節用集の全貌への接近という前提からすれば、辞書資料そのものを購入することを考えたい。古書店・即売会・通信販売・ネットオークションなどを活用して収集することとする。

#### (1) 2016年度

近世節用集および関連辞書資料の調査・撮影を、福井県立図書館・福井県文書館(以上8月)・秋田県立図書館・秋田市立図書館・秋田県立博物館・にかほ市象潟郷土資料館(以上9月)・もりおか歴史文化館・八戸市立図書館(以上10月)・神戸女子大学附属図書館(平成29年2月)・龍谷大学附属図書館(3月)において実施した。

資料購入は、四天王寺(大阪、10月)・下鴨神社(京都、8月)にて行った。また、旅費の節約および旅行時間の省略が期待されるので、ネットオークション・通信販売も活用した。

#### (2) 2017年度

近世節用集および関連辞書資料の調査・撮影について、新潟県立図書館・新潟県立文書館・長岡市立中央図書館・長岡市立互尊文庫・新発田市立中央図書館(6月)・国文学研究資料館(11月、平成30年1月)・成城大学図書館・国立国語研究所(3月)において実施することができた。新潟県における一連の調査では、近世全般の辞書類についての調査を行なうこととなった。後半の東京地区調査では、主として17世紀刊行の真草二行節用集を中心に、集中的な調査を行なった。

資料購入は、四天王寺(大阪、4月・10月)・京都市勸業館(5月)・愛知県一宮市内(7月)

下鴨神社（京都、8月）大阪天満宮（10月）知恩寺（京都）・東京都千代田区内・名古屋市内（11月）などにて行なった。

（3）2018年度

近世節用集のうち17世紀刊行書、特に寛永年間（1624～1644年）後半から寛文年間（1661～1673年）に刊行された『真草二行節用集』諸本の現存本全数調査を中核にするとともに、各所蔵先における他の節用集および関係書籍の書誌的調査と写真撮影による資料収集を行なった。なお、試験的な取り組みであるが、年度当初に調査・資料収集を集中させることにより、研究計画の効率化をはかることとした。調査を実施した施設・調査時期はつぎの通りである。大谷大学図書館・福島県立文書館・名古屋大学附属図書館・名古屋大学文学部図書館・西尾市立岩瀬文庫（4月）・青山学院大学文学部国語国文学研究室・京都大学大学院文学研究科図書館・群馬県立文書館・国立公文書館・千葉県立文書館・東北大学附属図書館・都立中央図書館・法政大学図書館・横浜国立大学附属図書館・松本市立文書館（5月）・栃木県立文書館・東京大学附属駒場図書館・国文学研究資料館（6月）。

資料購入は、四天王寺（4月・10月）京都市勧業館（5月）東京古書会館（6月）下鴨神社（8月）大阪天満宮（10月）京都知恩寺（10月）などにおもむいて行なうかたわら、ネットオークションも利用した。

（4）2019年度

本年度においては、研究計画の一定の成果としてまとまりをつけることに重点をおき、前年度までの調査の整理を中心に研究・検討を進めた。なお、調査の余地が出てくることが予想されたので、2020年1～3月に補充調査をおこなうこととしていたが、COVID-19のため調査出張がはばかれたため、所期の研究計画が達成されなかったのは遺憾であった。

資料購入は、四天王寺（4月・10月）京都市勧業館（5月）などにおもむいて行なうかたわら、ネットオークション・通信販売等を積極的に利用した。

#### 4. 研究成果

（1）2016年度

秋田県立博物館では『新節用万物大成』（宝永頃刊）を確認、これまで知られていなかったものである。また、秋田県公文書館蔵の「節用集」（仮題。享保18年頃刊）は、内題部分を削除して空白のまま刊行したものであるが、『新節用万物大成』の再版とおぼしいものであった。未発見の本を、秋田の地で2か所も見出せたことは、書籍流通面での新知見を得ることになるかもしれない。本研究課題においても貴重な知見につながる可能性がある。すなわち、近世の書籍流通（あるいは「辞書流通」と限定してもよい）および刊行という事態が、地域的特殊性を持つケースがあるかと思われるからである。一定の実用的語彙量をもつ節用集が、地域的に限定されながら印刷された例は、早引節用集についてならば福島・松本・仙台などの例がある。が、『新節用万物大成』（宝永頃刊）は、イロハ・意義分類体で挿絵入り教養記事を擁する、早引節用集よりも手の込んだタイプのものであり、地方での複製がやや困難であると思われる点で注意されるのである。このような地域性のあるものについては、松本・仙台の早引節用集複製のように他地での売買がなされたため、著作権問題となったことにより、複製の事実が発覚したのだが、地域限定の流通では察知しにくいものである。今回、秋田調査において、地域的な流通・出版の事例を思わせる事例が見られたことは予想外の成果であった。

また、予備的調査として、由利本荘市本荘郷土資料館・同中央図書館において所蔵書・所蔵者の情報収集をおこなうことができた。これは、国会図書館所蔵の『寿海節用万世字典』の旧蔵者・渡部幾松（同書中の署名による。享和3年時点で6歳ないし7歳。在、出羽由利郡本庄 金浦新町）の家庭環境などの情報と突き合わせ、近世節用集の使用者上の具体例を描出できる可能性を探る意味もあるものである。このような、現地に出向いて初めて得られるような情報も少なくなく、今後、この種の情報の収集を、現地調査のたびに行うことができるよう、措置していきたい。

資料購入は、節用集については、17世紀刊行書5点、18世紀刊行書3点、19世紀刊行書4点であった。関連書として『大広益会玉篇』（寛永8年刊。零本）ほか漢字字典4点、『日本王代一覽』（寛文4年刊）ほか3点を得た。『節用集』（上巻端本）は寛永6年刊本であることが明らかであり、他に東京女子大学（完本）・福岡市立博物館（上巻零本）などの所蔵が知られるだけのものである。『真草二行節用集』では慶安4年刊本（二部標目「皮」様本）を得た。

（2）2017年度

前記各所蔵書での調査をおこなった。新潟県東部の諸機関において調査を行うことができ、かつ、同県西部の調査対象についても情報を得ることができた。隣接する富山県の諸機関もあわせ、新たに調査計画を立案する展望が開けた。

資料購入は、節用集については、17世紀刊行書2、18世紀刊行書4、19世紀刊行書7を得た。関連書については、下学集1、和玉篇等漢字典5、以呂波韻等韻書6、地名字典1を得た。以上、やや低調ではあったが、このうち、『大成正字通』明治4年版を得たことは価値が高い。本書は濁音仮名の有無によって検索するのが特徴だが、享和2（1803）年以降の再版が知られなかった。すでに早引節用集の仮名数引き一辺倒であった時代での再刊が実際に確認できたわけで、当時の辞書刊行のありかたを考える好材料となるのである。

成果公開としては、「近世節用集事典（稿）」（<https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm>）を立ち上げ、調査結果等を公開と諸本の解説を付すことを試行した。また、岐阜大学機関リポジ

トリ「国語史資料」(<http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/handle/20.500.12099/54038>)に、近世辞書 19 点を PDF 形式で掲げることができた。

( 3 ) 2018 年度

17 世紀中ごろの節用集刊行状況の全貌をあきらかにすべく、ことに「真草二行節用集」の現存書の全数調査を企図し、ほぼ計画どおりに遂行した。この結果、明らかになったことを摘記すれば、次のようである。

寛永 15 年本の現存諸本は同一版木ながら補刻のため 4 段階に区分できる。

慶安 3 年本も補刻により 2 段階に分れる。

慶安 4 年孟冬本では 2 種の版木を用いたこと、それぞれに一部別版の混入を認める。

万治 2 年本を改修した異本が香川大学に存すること。

これをもとにイ部標目「以」字本（無刊記）が刊行され、さらなる覆刻本の存すること。

資料購入は、節用集については、17 世紀刊行書 2、18 世紀刊行書 5、19 世紀刊行 1 を得た。関連書については、和玉篇等漢字典 4、韻書 1、詩作参考書 1、本草関連書 2、仮名遣書 1 を得た。数のうえでは低調であったが、早引節用集の発想を促したかとされるも、現存数の少ない『早引和玉篇大成』（享保 5 年刊）を得ることができた。また、『江戸大節用海内蔵』（文久 3 年刊）は紺色表紙本を得た。初刷にごく近い状態のものと思われ、刊行をめぐる諸研究に資することが期待される。このほか『字典節用集』（寛延 4 年刊）・『真草二行節用集』（寛文 3 年刊、および冒頭字「以」本）など、現存数の極端に少ないものが得られており、結果的には充実した収集となった。

( 4 ) 2019 年度

4 年間の調査を集成することにより、「近世節用集事典（稿）」<https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm>において、約 170 本の情報を発信することができた。

資料購入については、節用集では 24 本を得、4 年間でもっとも多くの収集を果たした。17 世紀刊行書は 7 本を得た。このうち、近世極初期の元和 5 年版（下巻のみ）を得たのをはじめ、従来元禄 8 年刊本のみ知られていた内題を存しない異本の元禄 10 年再刊本を発見した。18 世紀刊行書 12 本では、これまで宝暦 9 年刊本のみ知られた『新撰部分節用集』の明和期刊本、『増字百倍』早引節用集』の初版本、イロハ・意義・片仮名総画数検索の『懷宝早字引』、これまで知られなかった『蠡海節用集』安永 8 年刊本などを得た。19 世紀刊行書 5 本には、余白を切り詰めた『大成無双節用集』1 冊本を得た。近世節用集の全貌を見定めるための貴重な原本収集をおこなうことができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐藤貴裕	4. 巻 1146
2. 論文標題 新出伊勢本節用集是心本解題稿	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 88-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴裕	4. 巻 21
2. 論文標題 印度本節用集特殊付録私解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近代語研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤貴裕	4. 巻 20
2. 論文標題 五井守香と『和漢通用集』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近代語研究	6. 最初と最後の頁 103-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 貴裕	4. 巻 19
2. 論文標題 『真草二行節用集』における研究課題 異版調査経過報告	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 近代語研究	6. 最初と最後の頁 123 - 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 井上泰至	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 近世日本の歴史叙述と対外意識	

〔産業財産権〕

〔その他〕

近世節用集事典（稿） <a href="https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm">https://www1.gifu-u.ac.jp/~satopy/kkn1619.htm</a> 国語史資料（岐阜大学機関リポジトリ > 教育 > その他 - 教育 > 国語史資料 <a href="https://repository.lib.gifu-u.ac.jp/handle/123456789/54038">https://repository.lib.gifu-u.ac.jp/handle/123456789/54038</a>
---

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----